

「すこやか倶楽部」を実施しており、今後も地域の協力を得ながら実施していきたい。

また、基幹型在宅介護支援センターは、介護予防の観点から重要な役割を担っており、平成十四年度は三カ所増やし一区一カ所の体制としたい。

保育行政

問 一月一日現在の本市の保育所待機児童数は八百三十二人に及び、平成十四年度に六百人の定員増を行っても待機児童が解消されず、さらに保育所を建設すべきと考えるが、いかがか伺いたい。

答 待機児童の解消は、本市の最優先課題の一つであり、平成十六年度までの今後三年間で千二百人規模の定員増を目標とし、初年度の平成十四年度は全体の半数に当たる六百人の定員増を計画したところである。

年度途中における待機児童についても、早期解消を目指し、今後とも積極的に取り組んでいきたいと考えている。

環境問題

問 国全体で公用車を低公害車へ替えていこうとする中、本市も率先した導入が強く期待されるが、本市公用車の低

公害車普及計画に掲げる目標の達成見込みについて伺いたい。

また、ディーゼル車の低公害車への代替が難しい場合はプロパンガス車や低排出ガソリン車に転換すべきと考えるが、いかがか伺いたい。

答 本市の低公害車の導入について、平成十七年度までに公用車百五十台を導入するという計画目標は、おおむね達成できるものと考えている。ディーゼル車についても、環境への負荷がより少ない車種にできるだけ代替していきたい。

協働社会づくり

問 NPO（民間非営利団体）など市民活動団体への業務委託推進のため、措置が必要と考えるがいかがか。市民が主体的に利用する施設の運営を委託する考えはないか。

答 行政業務の成果を挙げる方法の一つに委託があり、委託先としてNPOが適切と判断される業務は、今後もNPOに委託していく。市民利用施設については、市民との協働によって機能がより効果的に発揮される場合などは、運営の在り方も今後さまざまに形が生まれてくると考える。

豊平川への新たな架橋

問 札幌新道や環状通の交通混雑の緩和を図るため、宮の森・北二十四条通を延伸し豊平川に新たな橋を設置すべきであると考えているが、どのような取り組み状況となっているか伺いたい。

答 事業の必要性について検討を行ってきたところであるが、本市の環状型交通網の機能強化と環状通および札幌新道の道路混雑緩和を図るための有効な手立てであると判断したところである。したがって、平成十四年度から、既存道路との接続や河川占用上の課題などについて具体的な調査に着手する考えである。

市立札幌病院医師告発と 歯科医師研修

問 歯科医師に研修で資格外の医療行為をさせたとして、救命救急センター部長が起訴されたが、医師監督下で行う研修について見解を伺いたい。

答 今回の研修は優秀な歯科口腔外科医の育成を目的として行っていたもので、指導医の下で行われる研修は医師法違反に当たる行為とは考えていなかった。しかし、検察庁の判断を厳粛に受け止め、今後は、公判の動向を見ながら

適切な対応を図っていきたい。

委員会の活動状況

（二月十八日～三月四日）

総務委員会

△二月二十五日▽

「政務調査費に関する陳情」の再審査を行い、不採択とすべきものとなりました。

また、ペイオフ解禁に向けた対応について理事者から説明を聴き、質疑を行いました。

文教委員会

△二月二十五日▽

「不登校の児童生徒をサポートしている民間教育施設（フリースクール）に対する公的支援を求める陳情」の初審査を行い、継続審査としました。

△三月四日▽

学校警備について理事者から説明を聴き、質疑を行いました。

環境消防委員会

△二月二十日▽

火災・救急・救助件数にかかわる目標値の設定について理事者から説明を聴き、質疑を行いました。

△二月二十六日▽

（株）鈴木商会発寒リサイクル工場（西区）を視察しました。

厚生委員会

△二月十八日▽

国民健康保険料賦課方式の見直しの実施方針について理事者から説明を聴き、質疑を行いました。

△二月二十日▽

「障害者・高齢者が自由に移動できる環境を求める陳情」の初審査、「札幌市における精神障害者の社会復帰、社会福祉施策の充実に関する陳情」および「精神障害者の手帳による交通費助成の改善を求める陳情」の再審査を行い、いずれも採択すべきものとなりました。

第一部・第二部予算特別委員会

△三月一日▽

それぞれの委員会で副委員長を互選しました。

二月二十一日には総務・文教両常任委員会、また、三月四日には各常任委員会でそれぞれ付託された議案を審査しました。

市議会だよりの発行

第一回定例会の内容を詳しく紹介したさっぽろ市議会だよりを四月二十六日（金）に発行の予定です。市役所、区役所、連絡所、地下街ふれあい広場などで配布します。